

令和4（2022）年度 第3回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和5（2023）年3月27日（月） 10:00～11:40
- 会 場 健康管理センター3階 集団指導室
- 出席委員 植木会長、川本副会長、近藤委員、佐藤委員、野中委員、高橋委員、
松谷委員、小林委員、西巻委員、田辺委員 10人
- 欠席委員 村井委員、石川委員 2人
- 事務局 小池子ども未来部長
（子育て支援課）早津課長、小池課長代理、中村係長、石橋係長、丸山主任、村田主任
（保育課）中村課長、栗林課長代理、山口係長
（子どもの発達支援課）小林課長
（福祉課）尾崎課長、西巻係長 13人

1 開会 司会：子育て支援課主任

2 挨拶 会長

私の大学でも先日卒業式が行われた。40名が卒業し、ほとんどの学生が福祉職、保育士職に就いた。県内の養成校を中心に福祉職の養成を行っているが、現場では補充が追いつかない状況である。子ども・子育て会議の終了後には、そもそも根本的な原因がどこにあるのか、市町村の施策とは何かと毎回想いを馳せている。

今日は令和4年度3回目の会議であり、令和4年度の事業の取組を評価していく。評価表も提示されているので、忌憚のない御意見をいただき、新年度の事業計画に生かせるような発言をお願いしたい。

3 議題 司会進行：会長

- ・第二期子ども・子育て支援事業計画(令和4（2022）年度評価)について
- ・冒頭、総括表の見方、事業評価基準表について事務局より説明
- ・総括表（令和4（2022）年度 取組評価・実績）に基づき各担当者より説明
- ・総括表1～4 ①、② 教育・保育給付、地域子ども・子育て支援事業について

事務局：①施設型給付

田尻保育園の改築 別紙2

令和5年10月からの1・2歳児保育料の無料化 別紙3 について説明

②地域型保育給付

(1)一時預かり事業

(2)延長保育事業 について説明

委 員

10月からの1・2歳児保育料無料化は、大変すばらしいと思うが、自分の子どもが2歳の時近くの保育園に預けようとしたら定員一杯で離れた保育園を案内された経験がある。無料化になると育児休暇明けで預けたい方が増えると思うが、受け入れ枠は十分に確保できるのか。

事務局

これまでも、需要の偏りにより第一希望、第二希望に入れない場合はあった。この度1・

2歳児の無料化を実施するに当たり、令和4年度4月から2歳児を無料化した新発田市では在園児の4%が途中入園したと聞き、柏崎市では5%（34人）程度の増加を見込んだ。4月以降の公立保育園、私立保育園、幼稚園の空き状況を調査したところ93人の空きが確認できた。途中入園は各年度により状況は変わるが、ある程度要望に対応できると考えている。

会 長 ●●委員の指摘は懸念される課題である。事務局からは、十分に精査し準備を進めているとの説明があった。運用開始後の状況について子ども・子育て会議で報告いただきたい。

・総括表5～8 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : (3)病児保育事業
(4)利用者支援事業（母子保健型）
(5)妊婦健康診査
(6)妊産婦・新生児訪問及びこんにちは赤ちゃん事業 について説明

【質問・意見なし】

・総括表9～13 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : (7)乳幼児健康診査
(8)児童虐待防止事業
(9)家庭児童相談事業
(10)養育支援訪問事業
(11)養育支援事業（育児支援ヘルパー） について説明

【質問・意見なし】

・総括表14～18 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : (12)子育て短期支援事業
(13)ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）
(14)地域子育て支援拠点事業
(15)放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
(16)子どもの遊び場整備事業 について説明

会 長 高柳小学校の統廃合に伴う高柳地区の放課後支援体制の検討は、子ども・子育て会議で検討するのか。

事務局 検討については、地元の方と市とで要望をお聞きしながら検討していきたい。進捗状況については子ども・子育て会議で報告する。

・総括表19～22 地域子ども・子育て支援事業について

事務局 : (17)子育て応援券事業
(18)医療費助成事業
(19)実費徴収に係る補足給付を行う事業
(20)多様な主体が本制度に参入することを促進するための事業 について説明

【質問・意見なし】

- 会 長 全体を通して意見・質問はどうか。
- 委 員 夫の職場の方から子育てに関する相談をどこにすればよいか聞かれることがあった。お母さんは子育てができて当たり前と思われているため、市に相談するのが恥ずかしく、身内をお願いして済ませようとして頑張っている。お母さんへの相談窓口やサービス等の周知も必要だが、お父さん、祖父母、地域の方への周知もできると良いと思う。
- 事務局 サービスを利用できている方への情報発信はある程度できているが、サービスを利用していない方がどのように情報をキャッチできるかは、子ども未来部だけでなく、福祉保健部、教育委員会で拾い上げ、連携しながら必要な支援に繋げてく体制をとっている。引き続き情報発信には努めていくが、身近なところで相談いただければ何かしらの相談支援に繋がると考えている。
- 会 長 市もこれまでに工夫を重ねて相談窓口を使いやすくしてきた。市民の事情を知っている委員の方から子ども・子育て会議の場で市民の意見を市に伝えることは、子ども・子育て会議の重要な役割であると思う。
- 委 員 子どもの遊び場整備事業について、町内会長から遊具の改修について市の補助金（50万円）を利用する提案があったが、見積額が高額であり、子どもの少ない地域でもあるため、限られた町内会費を充てることに反対の意見が出た。
- 事務局 補助の上限額については令和4年度から対象経費の2分の1、上限50万円から3分の2、上限60万円に拡充した。複数の業者から見積もりを徴取する、複数年かけて改修することも御検討いただきたい。
- 委 員 業者を紹介してもらえるか。
- 事務局 斡旋に該当するため、紹介することはできない。
- 委 員 主任児童委員として赤ちゃん訪問に行くと両親ともに育休をとる方が増えていると感じている。
子どもの遊び場について、今は車で自由に動ける時代であり、市が郊外に遊具を設置してくれると子どもたちものびのび遊べるのではないかな。
1・2歳児の保育料無料化は素晴らしいと思うが、緊急的に保育が必要な時に定員満床を理由に断ることがないようにしてほしい。
- 事務局 産業振興部では男性の育児休業取得促進のため、企業及び個人への補助金を予算計上し可決された。「男性が育児参画」ではなく、「両親で子どもを育てる」という機運に考え方を変えていける施策を展開していきたい。
- 事務局 柏崎市では1月30日から出産・子育て応援交付金を開始し、国が示した子育てガイドに市独自の項目として父親の育児取得予定の記入を追加した。また、出産後の助産師訪問時、両親で出席する場合にはプランの中で子育ての分担を話し合ってもらっている。

さらに連携し、4月からは産業振興部作成の育児休業取得のチラシを母子手帳交付時に配布する予定である。

委 員 祖父母と同居の家族も最近増えてきている。同居であれば育児支援も受けられるが、アパート暮らしではネットからの情報が主である。両親で育てることはとても大切だと感じる。柏崎は海、山があるので山の方にも弁当を持って遊べる施設があると良い。町内ごとの公園整備では町内の負担が大きいので郊外の遊び場を整備してほしい。

事務局 子どもの遊び場については、特に室内の遊び場が課題であると認識している。令和5年度に整理し整備計画を立てたい。

事務局 一時預かりとして公立・私立保育園10園で生後6か月以上のお子さんの預かりを実施している。事業について広く周知していきたい。集中する園もあるが、各園で受け入れ態勢を整えているので第一希望にこだわらず広く考えていただきたい。

事務局 出産・子育て応援交付金事業を進めておりその中で相談支援体制を拡充することをセットで進めている。身内から育児支援が受けられない方が孤立しないよう引き続き相談支援体制の継続を進めていきたい。

委 員 1・2歳児無料化になると無料だから預ける人も出てくると思う。自分で子育てすることもある大切なことだと思う。保育園に預ける必要性が高い方が遠くの園に行かなければならないケースが出てくることも懸念されるのではないかな。

事務局 入園に対する保護者の考え方もあるが、入園については要件もある。本当に保育が必要な方が無料で保育を受けられるよう体制を整えていきたい。

事務局 現状1歳児の8割、2歳児の9割が入園している。園のキャパ(capacity)もあるができるだけ子育てしやすい環境づくりのため制限を付けない施策として考えている。いろいろな意見をいただきながらブラッシュアップしていきたい。

会 長 私も●●委員の発言と同じ懸念があった。保育料無料化はメリット、デメリットがあり、そのバランスとデメリットが保護者やお子さんの不利益にならないよう幾重にも予防措置を組むことが重要。このような意見がこの会議で出たことが良かった。次年度以降もこの件については引き継いでいくべき。

副会長 子育ての相談をいきなり元気館でと言われてもハードルが高いと感じる方が多いと思う。園(支援する側)からも声を掛けようと話している。子育て支援員の研修会でも「困っていることはないですか」などと声を拾うよう指導いただいている。子どもたちは、保育園やこども園、小学校のいずれかに所属しているので、職員側から保護者に寄り添う声掛けが必要。コロナの流行により保護者同士の関りが希薄化しているので、身近に接している職員が目向けることが必要と感じた。

・ 柏崎市子どもの生活状況調査について

事務局 : 柏崎市子どもの生活状況調査の概要と進捗状況について報告

4 その他（連絡事項等）

- ・報酬について

5 閉会 子ども未来部長

非常に貴重な御意見をいただいた。令和4年度の出産・子育て応援交付金の開始、令和5年度10月からの1・2歳児の給食費を除く保育料無料化等新たに子どもを取り巻く環境を重視し前に進めたいという想いで予算計上した。今後は子どもの生活状況調査の結果に基づいた施策の検討、子どもの屋内遊び場整備計画等、解決しなければならない課題がある。また、今ある施策を市内外へどう発信するかが重要なポイントになると考えている。

子どもたちが生まれるということは、柏崎市の可能性が深まることである。引き続き子ども未来部として取り組んでいきたい。今後も御意見いただきたい。